

エネルギー政策講演会概要

日 時 平成25年8月23日（金）13時00分～15時00分
会 場 奈良商工会議所 大ホール
参 加 者 約125名（募集150名）
目 的 再生可能エネルギーの利活用を促進するとともに、家庭での無理なくできる
省エネ・節電の取り組みの普及拡大を目指す。

講演内容

第Ⅰ部 「奈良のエネルギーを考える」～再生可能エネルギー多面的意義～

京都大学大学院経済学研究科 教授 植田 和弘 氏

概 要

FIT制度という政策手段を導入しての再生可能エネルギー発電の急速に拡大する意義は、以下の5つが考えられる。この再生可能エネルギーの特性を理解し、その活用の意義を明確にしていく必要がある。

- ① 新たな電力供給源、つまり再生可能エネルギーが拡大し、基幹電源になりえるかという量的転換への示唆。
- ② 分散型ネットワーク電源の構成
- ③ 気候変動防止の手段としての電源
再生可能エネルギーは放射性廃棄物もCO₂もでない優れもので、将来的には中心的な電源である。
- ④ エネルギー施設と地域社会、社会関係の変化
単にエネルギー政策だけでなく、地域の持続可能性を高める政策と同時に産業政策でもある。
- ⑤ 地域経済循環の活性化

第Ⅱ部 「家庭における節電の具体的な方策」

一般財団法人省エネルギーセンター 普及指導員 村上 なつき 氏

概 要

- ・10年前と比べエネルギーの消費量は、家庭部門で24.6%の上昇。エネルギー源としては電気が半分をしめ、主として暖房機器や給湯での消費。
- ・節電のための方法は、①消費電力を減らす②電気を使う時間をずらす③他の方法に切り替えること
- ・省エネへの取り組みは、一人一人の意識改革が必要。できることから無理なく実施していくことが大切。